

データ利活用による業務改善・改革を支援するコンサルティングサービスのご紹介

調達・購買業務を例とした データ可視化やAI・機械学習の実務導入のご支援に向けて

DX(Digital Transformation)の実現において、データ利活用は重要な課題です。これまで地道に業務改善に取り組まれている企業にこそ、その効果が期待できます。

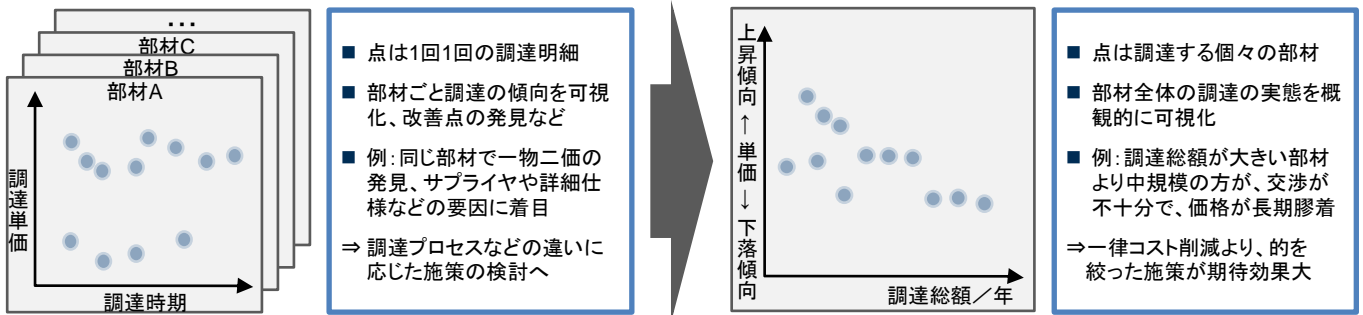
- 業務課題の所在に切り込み、その課題を可視化することで、初めて組織は動きます。
- AI・機械学習による予測や相関分析は、組織に新たな知見を生み出し、DXの推進に貢献します。

データ利活用によって実現できる業務改善・改革とは

本資料では調達・購買業務を例としてご紹介しておりますが、他の業務においてもデータの可視化やAI・機械学習に関する業務適用の知見や実績があります(裏面)。

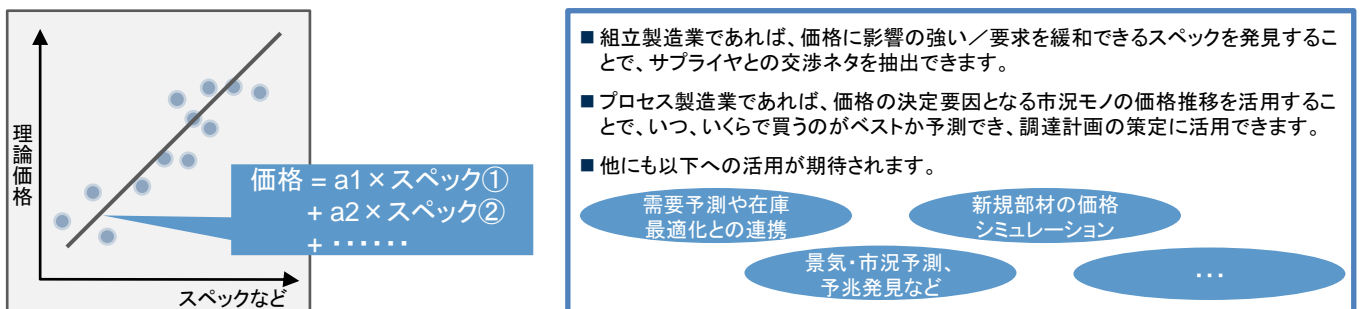
事例1. 部材ごとの調達動向の可視化、一物二価や長期価格膠着品の発見

- 部材1つ1つの可視化はしても、全ての部材の動向を把握した施策の検討は不十分なことがあります。
- 貴社内に大量に蓄積される調達明細データから、それらの動向を俯瞰することで、今までより高い効果が期待できる、実行可能で実践的な業務改善・改革の切り口、コスト削減の機会を発見できます。



事例2. 統計・機械学習を用いた価格予測による交渉の糸口の発見、調達計画(量・時期)策定支援

- 市場価格のベンチマーク情報が入手困難な部材でも、妥当な調達価格を把握・予測したい。
- 主に貴社内に蓄積されるデータを活用し、統計・機械学習を用いて、価格との関係性が強い要因を抽出し、理論価格を算出する仕組みを構築することで、コストダウンの対象部材や施策案の抽出につながります。



データ利活用による業務改善・改革の支援において、当社は3つの特長を有します。

データ利活用による業務改善・改革のステップ



当社の強み

① データサイエンティストによる上流からの支援

- データサイエンティストが最初から関与することで、データ利活用として適切な企画を作成できます(詳細は[こちら](#))
- 幅広いデータ利活用やその人材育成に関する知見もあります(下記)

② 「データワーク」を活用した最適な体制の組成

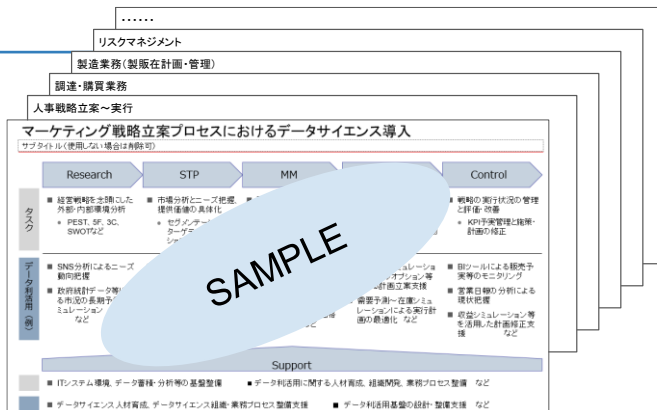
- 紙に書き込まれた情報、PDFに埋め込まれた値などが未だ多いのが実情です。
- これらを使えるようにする労力は、PoCの費用を圧迫するだけでなく、運用の実現に向けたボトルネックともなります。
- **(一社)データワークサポート**と連携する当社は、そのような状況でもデータ利活用を実行する体制をご提案できます。

③ ITベンダからの中立性

- 当社はIT部門を抱えず、特定のITソリューションも有しません。
- 中立の立場から、貴社に最適なITベンダの選定するなど、システム開発・運用をご支援いたします。

データ利活用に関する知見

- 社内外の業務改善・改革を支援してきた実績を基に、どのような課題には、どのようなデータ利活用が有用か整理・体系化(下図)
- マーケティングや人事、調達・購買、SCM、リスクマネジメントなどの分野を中心にデータ利活用の検討を支援する際のレファレンスがあります。



データ利活用人材の育成に向けて

- 社外に出せない情報・データを扱う業務もあります(人事・品証など)。また、データ利活用を社内でも実行できるよう、人材育成を併せて要望されることもあります。
- データ利活用に関する知識や経験など、現状の人材やスキルレベルに応じて実施形態などは変わりますが、専門知識があるコンサルタントが、アドバイザーコンサル形式でOJT研修的にサポートした実績もあります。



お問い合わせから企画提案までお気軽にお問い合わせください

お問い合わせはこちら

※上記ボタンをクリックすると、当社問い合わせフォームに遷移します。紙でご覧の方はQRコードをお使いください

